

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：東川 直正

事業名	一般国道3号 <small>あしきた い ずみ</small> 芦北出水道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：熊本県葦北郡芦北町花岡 至：鹿児島県出水市下知識町	延長	29.6km		
事業概要					
芦北出水道路は、広域ネットワークを形成する事により、災害時の代替路の確保や地域産業の活性化等の支援を目的とした事業である。					
H5年度事業化	H17, 18年度都市計画決定 (H一年度変更)	H11年度用地着手	H20年度工事着手		
全体事業費	約1,665億円	事業進捗率 (平成30年3月末時点)	約55%	供用済延長	7.7km
計画交通量	14,100～20,300台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 2.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 608/1,745億円 〔事業費：536/1,644億円〕 〔維持管理費：71/101億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,552/2,138億円 〔走行時間短縮便益：1,239/1,680億円〕 〔走行経費減少便益：219/329億円〕 〔交通事故減少便益：94/128億円〕	基準年 平成30年	
感度分析の結果					
【事業全体】交通量：B/C=1.1～1.3（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.2～1.3（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.3（事業期間±20%）		【残事業】交通量：B/C=2.6～2.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.3～2.8（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.3～2.7（事業期間±20%）			
事業の効果等					
<p>①広域交通ネットワークの形成 ・八代市から鹿児島市に至る沿岸部の広域ネットワークを形成することで、地域間の移動時間の短縮が期待される。</p> <p>②地域間交流の支援 ・芦北町、津奈木町、水俣市、出水市の通勤・通学・買い物などといった地域間交流の支援が期待される。</p> <p>③企業立地 ・ICからの10km圏域が拡大し、新たな企業立地が期待される。</p> <p>④災害に強いネットワークの構築 ・九州縦貫自動車道の通行止め時の代替機能などの防災機能の強化が期待される。</p> <p>⑤生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO₂, NO₂, SPM削減）</p>					
関係する地方公共団体等の意見					
出水市をはじめとする自治体（9市4町）で構成される南九州西回り自動車道建設促進期成会（会長：出水市長）から早期完成の要望を受けている。（平成30年11月）					
県の意見					
<p>（熊本県）今回意見照会のありました一般国道3号芦北出水道路の事業に関する国の「対応方針（原案）」案については、異存ありません。 この道路は、九州南部の高速ネットワークを形成する高規格幹線道路「南九州西回り自動車道」の一部を担い、災害時の代替路の確保や地域産業の活性化等を図る重要な道路です。 また、水俣病により疲弊した水俣・芦北地域の振興を図るうえで重要な道路であり、昭和53年の閣議了解を踏まえ第六次にわたり県が策定している「水俣・芦北地域振興計画」の中においても、「南九州西回り自動車道」の整備促進を重要な施策として掲げています。 以上のことから、本県としては、一日も早い全線供用を切望しており、今後ともなお一層の整備推進とともに、引き続き、コスト縮減に努めていただきますようお願いいたします。</p> <p>（鹿児島県）「対応方針（原案）」案の「継続」については、異存ありません。 当該道路は、九州縦貫自動車道などとともに、広域的な高速交通ネットワークを形成し、九州の一体的浮場に寄与するだけでなく、地域間の交流連携の強化、産業や観光の振興のほか、大規模災害発生時における住民の迅速な避難や緊急物資の輸送などに大きな役割を担う極めて重要な道路であることから、事業の継続をお願いするとともに、できる限り早期に整備完了していただきたい。</p>					

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向にあるが、交通量は約1.9万台/日で推移し、また、自動車保有台数は熊本県・鹿児島県合計及び九州全体を上回っており、自動車交通への依存は高いと考えられる。事業化と比較して、社会的情勢の大きな変化は認められない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成5年度に事業化、用地進捗率約89%、事業進捗率約55%。(平成30年3月末時点)

平成27年度：芦北IC～津奈木IC間 延長7.7km (2/4) 開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

平成30年度：津奈木IC～水俣IC間 延長5.6km (2/4) 開通予定

施設の構造や工法の変更等

法面工法の見直し、地盤改良の見直し、トンネル支保工構造の変更

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。